

(第6期) 第9回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

平成25年3月26日(火) 午後1時30分から午後3時45分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 9階学習室2

3 出席者名

〈委員：11名〉

- ① 楠谷 忠洋 委員長
- ② 安藤 聡彦 副委員長
- ③ 岩井 正三 委員
- ④ 柿塚 一二三 委員
- ⑤ 加藤 久美子 委員
- ⑥ 久世 晴雅 委員
- ⑦ 鶴見 清一 委員
- ⑧ 船木 正子 委員
- ⑨ 渡邊 紀子 委員
- ⑩ 青木 光美 委員
- ⑪ 長岡 綾子 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- ① 北区 大砂土公民館長 佐藤 一義
- ② 大宮区 桜木公民館長 大野 操
- ③ 見沼区 大砂土東公民館長補佐 川窪 商司
- ④ 中央区 鈴谷公民館長 足利 英之
- ⑤ 桜区 田島公民館長 真下 一男
- ⑥ 浦和区 岸町公民館長補佐 押田 龍彦
- ⑦ 南区 文蔵公民館長 戸張 豊一
- ⑧ 緑区 大古里公民館長 三上 富士夫
- ⑨ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 斉藤 典男

〈事務局：5名〉

- 生涯学習総合センター
- ① 館長 中川 晴美

- ② 主幹 小川 栄一
- ③ 主幹兼事業・企画係長 森田 隆之
- ④ 事業・企画係主査 斉藤 明彦
- ⑤ 事業・企画係社会教育指導員 橋本 佐度子

4 開 会

出席状況の確認、第8回審議会議事録の承認を経て議事に入った。

5 議 題

- (1) まちづくりの視点に立った公民館事業のあり方について
- (2) 拠点公民館・地区公民館事業計画概要について

6 配布資料

- (1) 前回（第8回公民館運営審議会）のまとめ（資料1）
- (2) さいたま市公民館運営審議会答申「社会変化に対処する公民館のあり方について」の概要（案）（資料2）
- (3) 公民館運営審議会審議資料における意見のまとめ（資料3）
- (4) 平成25年度 さいたま市公民館事業計画概要（資料4）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

- ・会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

- (1) 事務局より、資料1、2、3に基づき、前回（第8回公民館運営審議会）のまとめ、及びまちづくりの視点に立った公民館事業のあり方について説明

楠谷委員長	ただいま前回のまとめ、及び答申の概要についてご説明いただきました。何かご質問、また、他にも答申の中に、こういうものを入れた方がいいというご意見がありましたらお願いします。
久世委員	参考までに、カラーコピーの資料を皆さんにお配りしました。公民館というと、やはり高齢者対象の活動が多くて、青少年とか子供に対する活動が手薄ではないかという話があります。悩みをもっている子供たちを何とかしてあげなければいけない。その中で学校の役割は大切で、スクールカウンセラーもとても大切です。実際、さいたま市内でもたくさんの自殺予

	<p>備軍がいるということも事実です。そういう子供たちには、あらゆる手段で、団体、機関を使って対策をたてなければならない。公民館も地域、学校と連携して取り組んでいく必要があると思います。色々な講師の話を聞きますと、やはり、家庭が一番大切で、次が地域、その次が学校なのだといわれます。その中で、私たちの公民館をどういう位置にもってくるかが非常に重要になってくると思います。公民館も青少年に対しての問題に取り組んでいかなければいけないと思います。</p>
楠谷委員長	<p>はい、公民館が昭和 21 年に創立された当時、次官通牒の 7 つの指標の中に「青年層の積極的参加を求める」という項目がはっきり出ています。当時は青年層を中心にした公民館活動が展開されていた事実もあります。ところが、青少年等、本来、比較的利用できにくい人たちへの配慮や工夫利用者の声を聴く運営となると、ややもすると、高齢者を中心とした事業の多い公民館になっていました。公民館を中心とした社会教育の活性化を図るためにも、青少年の問題に対して力を入れてほしいというご説明でありましたが、何かこのことについてご意見、ご質問等ありますか。</p>
安藤副委員長	<p>私もすごく大事なことと思います。</p> <p>公民館の職員の話聞いていますと、だいたい 1970 年代後半から 80 年代前半までは、かなり若者も公民館に来ていて、青年学級があって、サークル活動も展開していたことということです。ところが気がついてみると、若者たちが公民館から撤退してしまって、公民館に来なくなっていました。今、子供から若者を取り巻く問題がたくさんあります。困難をかかえている子供や若者を視野の中に入れ問題にしていくのはとても大切なことだと思います。</p>
楠谷委員長	<p>ありがとうございます。ほかに「まちづくりの視点に立った公民館事業のあり方」についてご意見、ご質問はありませんか。</p>
安藤副委員長	<p>大事な視点が 5 つ書かれていると思います。一番大事なことは、全国的にも充実している公民館体制を持つさいたま市が、どういうふうに公民館を生かせるか、どのようにまちづくりに有機的につなげていくことができるのかだと思います。</p> <p>それから、資料 2 の「公民館をとりまく背景」の中に、現代社会の問題、家族の問題とか貧困問題などがさいたま市の中にもあることを書き入れたいと思います。</p> <p>私が一貫して思うのは、公民館というハードをまちづくりにつなげていくのに大切なのは、公民館の職員の皆さんだということです。</p> <p>3 月に英国のユースワークを観にいきました。いろいろな困難を抱えた若者をいかに自立させていくかというもので、一番印象的だったのは、職員がまちに出て行って、若者に声をかける姿でした。職員が館内だけでなく、実際の地域に出て行って、声をかけ、話を聞いてニーズを把握することがすごく大事だと思います。公民館とまちづくりをつなげるために、核となるのはやはり職員の力量だと思います。その職員の様々なスキルアップのための</p>

	<p>研修を予算的には難しい面があるとは思いますが、資料2の5つの視点の「職員・利用者のあり方、役割」のところに入れたらいいのではないかと思います。</p>
加藤委員	<p>副委員長のお話、とても重要だと思います。今、さいたま市では公民館の職員の中に社会教育の研修を受けた社会教育主事は、どの位いるのですか。</p>
森田主幹	<p>毎年順次、研修に送り出しています。</p>
加藤委員	<p>因みに、年に何人くらいのペースですか、目安を教えてください。</p>
中川館長	<p>年に1人くらいです。</p>
加藤委員	<p>それは少ないですね。私も利用者の立場として職員の皆さんと一緒に環境づくりをやっていると思っています。コアの部分は職員だと思いますので、そこはしっかりと予算をとってスキルアップできるような研修の環境が欲しいと思います。</p> <p>私自身、子どもがまだ小さいころ、市民として公民館に支えていただいた覚えがあるので、少なくとも拠点公民館に1人は、核となる職員がいるといいと思います。そういう職員がいて、地域の人が育ち、まちが育つことにつながるのだと思います。</p> <p>もう一点、生涯学習の中に女性の視点をどう位置づけるか非常に大事だと思います。男女平等の教育を受けた女性の社会的担い手としてのありようが不十分だと思います。生涯学習における男女共同参画の視点をどこかに明記することができたらいいと思います。具体的に社会化するためにも広い視点の中に入れてたいと思います。</p>
青木委員	<p>居場所ということを強調してもいいと思います。私の経験で、初めて公民館に行った時は、ただでも敷居が高かったのに、リアクションがなく終わり、少しがっかりしました。次に行った公民館では「こんにちは」と声をかけてくれたのから始まって十分に話ができました。利用者と職員のあり方、コミュニケーションの取り方が大事だと感じました。もっと来館者に声をかけてほしいと思います。私も職員の研修の充実の中に、学術的研修だけではなく、ヒューマンスキルの研修を入れてほしいと思います。</p>
中川館長	<p>先ほど加藤委員さんからの男女共同参画の視点は、男女共同参画推進事業として公民館事業にもありますので、「行政との連携」の中にその文言をいれることができるかと思います。</p> <p>久世委員さんからの青少年に対する事業は、「学校との連携」ということでそこに新たに一文入れようかと思います。ヒューマンスキルを含めて職員研修の充実も「職員の役割」の中に加えたいと思います。</p>
楠谷委員長	<p>加藤委員の話にもありました職員の研修ですが、公民館職員の中に研修を受けた社会教育主事はどのくらいいますか。</p>
森田主幹	<p>59館に9人おります。</p>
楠谷委員長	<p>ほかに何かありますか。</p>

久世委員	<p>さきほどの青木委員の初めて公民館に行った時のお話、本当にうなずけます。</p> <p>公民館の事務室の職員の配置が悪いと感じます。職員はパソコンを見ていて、声をかけづらいのです。もっと親しみのわく座り方、配置に変えたほうがいいと思います。</p>
楠谷委員長	<p>今のような申込方法になってから、職員と利用者との会話が少なくなりました。</p>
岩井委員	<p>そうですね。公民館に入って、ガラス窓を開けて話さなければならないのは不自然です。利用者と職員の障壁になっています。</p>
長岡委員	<p>職員のあり方ということで、私は逆に考えてみました。新しく来た職員を地域の方々が「ここはこういうところですよ」といって温かく迎える体制です。利用者と職員がお互いに良さを理解し合える体制づくりを地域全体も意識しなければいけないと思うのです。</p>
安藤副委員長	<p>今のお話とても大事だと思います。</p>
渡邊委員	<p>職員の方も地域の中につながっている、支えられているという思いが地域のために尽くそうという意識を育て、いい関係ができるのだと思います。</p> <p>以前は、保健センターが公民館で育児相談という形で、子供の身体検査をしてくれました。そこから他のお母さん友達ができ、仲間づくりになり、地域に入っていけました。</p>
加藤委員	<p>かなり前になりますが、公的学習支援の仕組みとして委託金の制度がありました。今はなくなりましたが、金額は別にして、その仕組みのもとで、グループ学習をして育った地域の問題解決能力のある人材がつくれます。地域のまちづくりに役立つ人材ができます。今またそのような仕組みをつくって、そういう方たちを応援する制度が必要な時期なのではないかと思います。</p>
中川館長	<p>確かにそういう制度は生涯学習を地域に広げるためにありました。ただ「サークル」で終わるのではなく、地域につながっていく活動にもっていけるような体制づくりは大切なので考えていきたいと思います。</p>
楠谷委員長	<p>では次に議題2の拠点公民館・地区公民館事業計画概要について事務局より説明をお願いします。</p>

(2) 事務局及び各区拠点公民館職員より、資料4に基づき、平成25年度さいたま市公民館事業計画概要について順次説明

楠谷委員長	<p>内容が多いのですが、ここは、という質問がありましたらお受けしたいと思います。</p>
渡邊委員	<p>岩槻区拠点公民館長に、土曜日午前中の勤労者対象の講座についてうかがいたいです。</p>
斉藤館長	<p>これから募集するのですが、月5～6回行いたいと思っています。</p>
渡邊委員	<p>桜区拠点公民館長に、広報入門講座について詳しく聞きたいと思っています。</p>
真下館長	<p>これは今、田島公民館で行っているのですが、広報の糸口となる公民館報</p>

	の編集会議に市民が参加して、館報を地域の方の目線で作ってほしいというものです。
安藤副委員長	<p>地域の特色が表れているのがよく分かりました。</p> <p>先ほどの若者を対象にという話ですが、中学校との連携は進んでいると感じましたが、もう少し上の世代の若者のいる高校、専門学校、大学などとの連携した活動の話がなかったようですが、そこはどうなっていますか。</p>
川窪館長補佐	見沼区では、昨年、夏休み子ども公民館の事業の中でヒップホップダンス教室を計画して地元の大宮商業高校にお願いしたのですが、実現できなかった経緯があります。
真下館長	<p>桜区では以前、埼玉大学と連携して、大学の天体望遠鏡を利用しようと、公民館の利用者を募り、見せてもらいました。学生が、案内、説明してくれました。寒い時期でしたが、20人以上の参加がありました。</p> <p>土合公民館では、隣接する浦和工業高校の生徒の指導によるパソコン教室を昨年開催しました。</p>
中川館長	中学校との連携が目立つのは、いじめ、自殺という問題が多い中学の現状がありますので、できれば学校以外の場として公民館で違う関わりができるようにということの表れだと思います。

(3) その他

- ・次回は、5月28日（火）13時30分から生涯学習総合センターにおいて開催することを確認した。

11 閉会